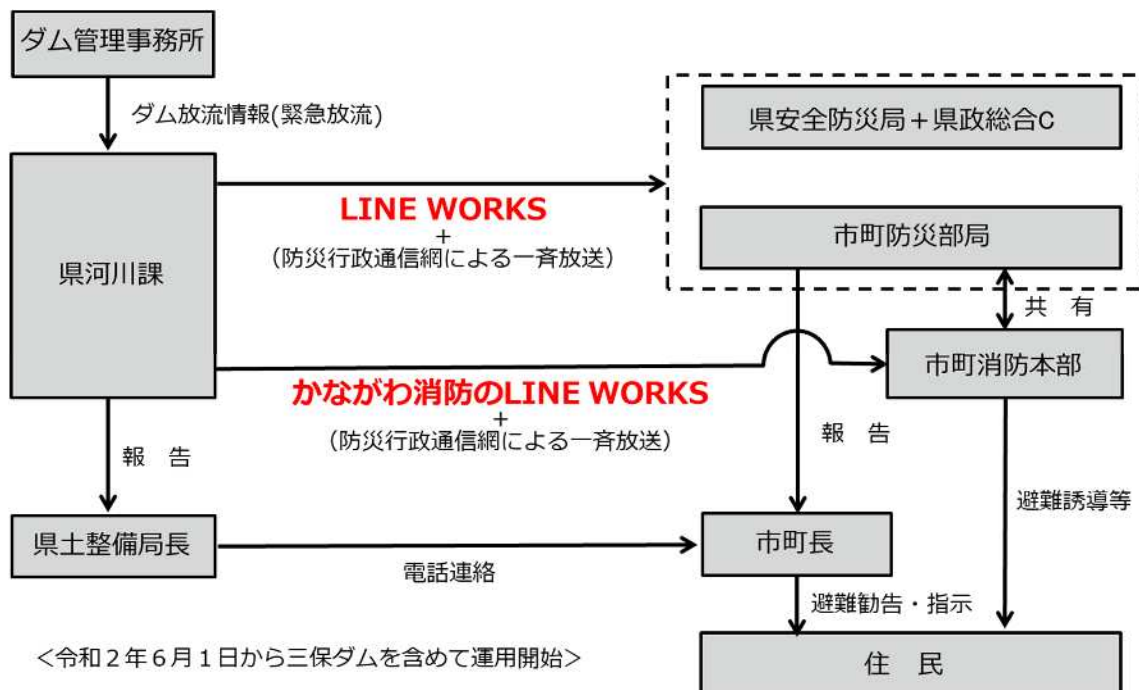


有効で機敏な情報共有の仕組みの構築

(1) 「LINE WORKS※」の導入

これまで電話を基本としていた県・市町間の情報伝達や情報共有について、これを迅速かつ確実にできるよう新たに「LINE WORKS」を基軸とする仕組みを導入する。

【伝達フロー】



※ ワークスモバイルジャパン株式会社が提供する企業向けのチャットサービス

(2) 情報伝達の項目や内容の改善

流域市町が住民避難に係る対応を円滑に行えるよう、緊急放流に関する情報伝達の項目を見直し、これまでより情報量を増やすとともに、伝達内容を充実・整理した上で様式を定型化し、「LINE WORKS」で情報を伝達する。

緊急放流に関する情報項目	情報伝達のタイミング
①事前情報 【新規】	計画規模を超える降雨が予測され、緊急放流を実施する可能性が生じた時(2~3日前)
②見込み情報 【新規】	緊急放流を実施する時刻の見込みが明らかになった時
③3時間前予告	緊急放流を実施する予定時刻のおおむね3時間前
④見送り情報 【新規】	想定より降雨量が少なかった等により、予定時刻での緊急放流の実施を見送った時
⑤1時間前予告	緊急放流を実施する予定時刻のおおむね1時間前
⑥中止情報 【新規】	想定より降雨量が少なかった等により、緊急放流を中止する時
⑦開始情報	緊急放流を開始した時
⑧継続情報 【新規】	緊急放流実施後、さらに放流量が増加し、氾濫等による甚大な被害が予測される時
⑨解除情報	緊急放流を終了した時
⑩臨時情報 【新規】	その他、①~⑨の定型外の情報伝達が必要となった時

ダム連絡
第4号様式①-3

至急 城山ダム

切迫感を伝える

情報

【重要情報 異常洪水時防災操作 見込み情報】

令和〇〇年〇月〇日〇時〇分
城山ダム管理事務所
発信者：〇〇〇〇

伝達内容を充実・強化

<ダム操作に関する連絡>

城山ダム（神奈川県相模原市）では、計画規模を超えるダム流入量が予想されダムに水を貯められなくなり、〇月〇日〇時〇分頃から下流に流れる水量が計画最大放流量（3,000m³/s）を超える異常洪水時防災操作に移行する可能性があります。

移行する場合は、おおむね3時間前にも事前通知をしますので、ダムからの連絡等に注意してください。

※今後の降雨状況により時間が前後する可能性があります。

伝達のポイントが一目で分かるよう強調

警戒レベル4相当

- ・ダム下流の河川で水量が増加し、氾濫のおそれがあり。
- ・避難勧告等の措置が必要。

【ダム情報】
現在時刻：〇月〇日〇時〇分

流入量：〇〇m³/s
(1時間前より約〇〇m³/s 増加)

ダム水位：EL 〇〇.〇m
(1時間前より約〇〇m 上昇)

洪水時貯水率上限 概ね140%

貯水率(有効容量)：約〇%
(1時間前より〇%上昇)

放流量：〇〇m³/s
(1時間前より約〇〇m³/s 増加)

ダム上流域平均雨量〇〇mm

今後の予測
上流域平均雨量〇〇mm
最大流入量〇〇m³/s

※値はすべて速報値

※ダム放流情報と河川水位情報(速報)「かながわの水がめ」参照

流入量、放流量、ダム貯水位に関する情報を図で分かりやすく

※異常洪水時防災操作とは、大きな出水によりダムの洪水調節容量を使い切る可能性が生じた場合、ダム下流量(放流量)を徐々に増加させ、流入量と同程度の流量を放流する操作のことです。